

令和8年度 議会運営委員会視察報告について

委員長 小野壽義
副委員長 内山伸博
委員 高崎裕人
委員 松野美雪
委員 川野悦子
委員 黒岩重彦
委員 佐藤 源
委員 後藤理恵
議長 井上勝彦
副議長 大場美紀

視 察 日：令和8年7月27日(月)

視 察 先：北海道登別市

視察内容：議会改革について

7月27日は早稲田大学デモクラシー創造研究所が行っている「地域経営のための議会改革度調査」で4年連続で全国1位に評価されている、登別市を視察しました。

議員一人ひとりが自己評価を行い、議会基本条例の検証を2年ごとに取りまとめ、PDCA サイクル（計画、実行、評価、改善）で、次期の常任委員会で改正の取り組みが行われています。

各常任委員会は、毎年重点活動テーマを設定して、市民と意見交換を行ない、政策提言に向けた委員間討議に取り組んでいます。また、過去に提言した項目で継続的に検討が必要な案件は、再調査や再研究を各常任委員会で協議を行ない実行に向け取り組まれています。

議員や常任委員会が変わっても、継続的・論理的な議会活動と運営が行われるよう取り組みがなされています。

IT 推進に関する特別委員会は平成12年度に設置され、平成18年度に議会改革推進委員会を全議員参画のもと、小委員会制で設置されました。平成19年に第1回目の「議会フォーラム」を常任委員会の活動報告や常任委員会との意見交換会の形で開始されています。

議会フォーラムは、毎年行われ「子ども議会」「スクール型」「多世代型」による質疑や意見交換など様々な手法で開催され、各委員会から活動報告後にテーマにそったグループディスカッション方式もパッケージ化されています。

.....

議会サポーター制度の「市民サポーター」は、各分野に関心や見識の高い「市民」が委員会に参加し、市民協働をめざすための仕組みとして委員会に常設し年1回以上の意見交換が行われています。

また「専門的サポーター」は大学教授や公認会計士に依頼し、5名以内で有償、非常設で議案審査や調査に必要な場合に行われています。このサポーター制度はオンラインでも参加できます。

オンライン委員会は、コロナ禍に限らず様々な議員の参画を支える仕組みとして活用されました。令和5年度に議会規則の改正によりオンラインによる一般質問にも対応できるようになっていました。

主権者教育は、高校生に対して議場や学校に出向いて行い、中学生に対しても議場にて行ってい

ます。小学校については、議会のあらまし、キッズページを活用するよう校長会に要請されています。

また、議会を身近な存在にするために、一般質問告知ポスターを作成し市内の各所に掲示されています。各議員の質問の日時、質問内容を表記し、議会傍聴を促しているようです。

また、議会事務局職員からの提案を制度化して受け入れ、議員と事務局職員が協働して議会運営の改善を進めるようにされています。議会事務局職員からの提案で実現したものの一つとして、二次元コードを活用して傍聴者への会議資料の配付を行うようになった事などがありました。

令和8年度 議会運営委員会視察報告について

委員長	小野壽義
副委員長	内山伸博
委員	高崎裕人
委員	松野美雪
委員	川野悦子
委員	黒岩重彦
委員	佐藤 源
委員	後藤理恵
議長	井上勝彦
副議長	大場美紀

視 察 日：令和8年7月28日（火）

視 察 先：北海道南幌町

視察内容：議会改革について

7月28日は南幌町の議会改革について視察を行いました。

南幌町議会の「議会マニフェスト」は令和6年7月より取り組みをはじめ、令和7年3月に策定されました。策定の目的は、「議会の見える化」「身近な議会活動」「情報発信の拡充」の三つを重視し、開かれた議会に取り組まれています。マニフェストの具体的なものは、各常任委員会の傍聴や議事録の開示、議会報告懇親会の充実、議員とのしゃべり場の開催、議会ホームページの充実、YouTubeによる議会中継など多様な取り組みがされています。

南幌町は議会評価提言者制度を採用して、「議会マニフェスト」の検証を行っています。検証は本年2月時点で約80%達成されたとのことでした。

議会評価提言者は18歳以上の町民で議会に興味がある方で構成されています。但し、公務員は参加できないとのことでした。

「議員とのしゃべり場」はテーマを設定して、町民が自由に意見交換をする場所です。日頃から感じている課題や要望を議会が聞く場となっています。担当は議員2名です。それに議長、副議長が対応しています。

この「議員としゃべり場」の意見は各常任委員会で対応しています。議会報告懇談会は年2回開催され15名前後の方が参加され、町の問題などに意見を出し合っています。

また、町内全域で懇談会や小規模の懇談会も行われており、中学生や小学生を対象に出前講座や子ども会議も開催して、主権者教育にも積極的に取り組まれています。